

令和7年度 授業改善推進プラン 美術科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題
・どの学年も授業に前向きに取り組む生徒が多かった。 ・美術を身近に感じることができるよう日常生活の中で美術と関わり方に気付く機会を増やす。参考作品として授業で紹介する作品をよりよく発想が広がるものを選択したり、使用する教材を工夫するなどして生徒の興味関心を深めたい。 ・校内展示作品や参考作品を鑑賞し作品から刺激を受けて、自分の作品に生かそうとする生徒が多い。

美術の課題と具体的な授業の改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
知識・技能	○対話型鑑賞を取り入れた授業を実施し、作品の意図や表現を読み解きながら鑑賞することを楽しめる生徒が多い。作品の意図や表現を理解し、自分の作品に技法を取り入れて生かそうとする生徒が多い。 ○主体的にテーマを決めようと、各自が持っているタブレットを用途に合わせて使用し、作品制作の発想に繋げようと活用することができる。材料や用具の使い方を工夫し、努力することができる。 ○授業での活動を通して感じ取ったことや考えたことを作品に生かすことができる。作品の知識を深め、創造的に表現できるようにする。 ○絵の具が苦手という生徒も、色塗りや絵の具の特性を理解し、習得・活用ができ技能を身につけようと前向きに取り組む生徒が多い。	○学芸発表会では、見応えある作品になるよう取り組み、生徒に達成感・自己肯定感を持たせるようにしたい。 ○生徒が作品制作に興味をもち、様々な素材や技法にとりいれ意欲的に取り組めるような課題を設定する。生徒が授業を通して習得した技能や感性を大切に、作品制作に生かせるよう題材を工夫する。 ○制作が進む中で、単なる作業的な技能の習得ではなく生徒が表現したい感じや効果などを自己の心情などと関連付け、常に自身の表現を振り返りながら制作を進めさせる。 ○三中に訪れた人が生徒一人ひとりの作品を見ていただき、三中の子ども達の素晴らしいさや豊かな発想力を感じてくれるような環境づくりをする。 ○美術作品や身の回りの環境を美しさや自然との調和の視点から捉える授業の展開をしていく。 ○生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きについて考え、中学生の発達段階に応じた、様々な表現の技法を身につけさせる。
思考・判断・表現	○感じ取ったことや考えたことを基に1年生では、色彩や道具の使い方の基礎を通して発想・構想することを学び、習得した技能を活かし、多様な課題に取り組むことができる。 ○2・3学年になると、1学年で身に付けた技能の他、対象や事柄の捉える造形的な視点について理解し、意図に応じて自分の表現方法で創造的に表すことができる生徒もいる。しかし、自分の表現を整理することが困難な生徒もいる。 ○自分が表現したいことを大切に、タブレットの活用、他者の意見から発想を得ようと努力することができる。	○自分の作品に愛着がもてるよう教員から生徒一人一人に声かけや良さを引き出せる支援を行う。また、他者の作品を大切にできるよう道徳教育と関連づける。 ○生徒自身の発想や表現の幅が広がる働きかけや発想を深められるようにイメージマップ等を取り入れたプリントを工夫する。 ○他者の作品を見る機会を増やす。同じ単元の中でも様々な視点で創作し、各々の思考が深まるよう作品に触れる機会を増やす。 ○主体的に資料を探せるような生徒を育てるための資料準備やアドバイスができるよう自己研鑽を積む。 ○生徒にとっても表現活動を楽しく、発想を得られる環境環境づくりを行い、環境要因の困り感を減らしていく。
主体的に学習に取り組む態度	○各学年とも、授業に熱心に取り組む生徒が多いが、一部集中力が続かない生徒もいる。 ○作品制作の時間は十分に確保し、進度に個人差ができた場合もそれぞれが意欲的に授業に取り組むことができる。作業の遅い、困っている生徒は、教員が実演するなど分かりやすく取り組めるよう指導する必要がある。 ○毎時間ごとの振り返りシートの記入を実施し、授業時間内に作品を完成する計画や学んだ知識・技能をいかす方法を考えるなどの表現・観賞活動に対して、見通しを立てられる生徒もいる。	○毎時間ごとに、その時間の目標を明確に示すことで生徒が見通しもって取り組んだり、集中できる時間をさらに増やす。 ○生徒の作品展示を引き続きこまめに行う。可能な限り、全生徒の作品を掲示する。 ○苦手意識を持つ消極的な生徒への教員が実演や参考作品の掲示など、生徒が意欲的に活動できるように支援していく。 ○制作の見通しを立てる事に困難を示す生徒には、授業ごとの課題をスモールステップ化させ、生徒一人ひとりが課題が達成できる計画が立てられる題材を教員が授業を考えていく。